

やすらぎ



「歎異抄」(第二十九回)

標 暁 講述

「歎異抄」第十三章 続き
よきところのおこるも、宿善の
もよおすゆえなり。悪事のおも
われせらるるも、悪業のほから
うゆえなり。故聖人のおおせに
は、「卯毛羊毛のさきにいろちり
ばかりもつくるつみの、宿業に
あらずということなしとしるべ
し」とそうらいき。

(真宗聖典六三三頁)

「歎異抄」第十三章の宿業説は、悪
をつしめ善人になつて念仏しなけれ
ば救われないと主張する異義、専修
賢善計を破るために説かれた。お弟
子方の誤った考え、主張を大別すれ
ば二つあり、一つには誓名別信計、も
う一つは専修賢善計である。誓名別
信のはからいとは、誓願と名号を

別々に信ずる。誓願を信ずれば念仏
など称えなくてもよいのだ、という異
義である。専修賢善のはからいとは、
悪人の救いだというけれど、やはり
我々は自分のころをいともよくして
善人にならなければ、念仏しても救
われないのだ、という異義である。仏
のお慈悲により悪人も救われるのだ
ろうが、実はやはり念仏して善人に
ならない。よいころをおこさないよ
うな人間は救われないのだ、という間
違った了解である。専修賢善を批判
する一ヶ条として、この第十三章があ
る。自分の能力ではどうすることも
できない生死罪濁の凡夫が、誓願の
不思議によつて救われるという真宗
の正意をあらわそうとしたのであ
る。宿業とは、過去世の言動とその
果という意味である。現実の自己自
身がはかりしれない過去とながつて
いる、という仏教の思想である。「歎

光照寺寺報

発行所
宗教法人光照寺

〒331-0821
さいたま市北区别所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji

発行人
池田孝郎

異抄」では、この言葉を用いて、我が
身とは自己の自由意思によつて、す
ぐに善人になれるような単純なもの
ではなく、縁によつてどんな言動でも
する迷妄の存在であることをあらわ
している。道徳的な教育を受けた非
常にすばらしい人物であつても、時と
場合によつては人を殺すような行動
をしなくてはならないこともある。
そういう自分では、どうすることも
できない煩惱具足、罪悪深重の身で
あることを具体的にあらわしている。
宿業の自覚とは、機の深信の徹底
であり、自分の自覚内容、信心の自
覚内容としてあくまでも機の深信
に立脚し、あらわされたのが宿業の
身ということである。運命や宿命、あ
るいは天命ということとは、質が違
う。宿業の我が身。どこまでも我が
身の自覚である。ここがはつきりと

自分のこととして受け止められるか
どうか、一番の根本問題である。
(当寺)ご法話抜粋要約、文責副住
職 釈徹照) 次回へ続く



沖縄旅行にて しげま小児科医院と沖縄別院
(次号にて旅行特集記事掲載します。お楽しみに)

子供会発足
光照寺護持会総会報告
孟蘭盆会法要
八月一日(日)午前・午後 厳修
詳細は三頁
詳細は四頁
詳細は五頁

む げ こう 無 碍 光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

す。

私は窃かに思っていることがあります。それは、戦後民主主義をよく知らないままに、民主主義を安易に受け入れ、何もかも、民主主義、民主主義としてこの六十五年間突っ走って来たのではないのか、と思っています。

この民主主義の根本にキリスト教が背景にあることをだれも考えていないことです。特にやっかいなことは「レリジョン」を「宗教」と訳してしまい、何もかも「宗教」になってしまい、仏教も宗教の一つになり（本来、宗教は宗の教として仏教用語であり、最も大切な根本の教えとして、お釈迦様がお説きになった仏教を指し示した言葉であったのです。）本来の宗教が見失われてしまったと感じます。

キリスト教の「レリジョン」の根本に、「神と民の契約」が前提にあり、「契約」に基づいて、「再び神の国に呼び戻す」意味であります。その「契約」に基づいて、神より信託された民が、神より主体を付託された意味が「民主」であります。神との契約を忠実に守り生活し、神の国に召されて救われることを意味します。ここに神の恩恵をうけることが救いの意味です。

このことを知らずに、ただ「デ

モクラシー」イコール「民主主義」と安易に認識し、「多数決が善」となり、「個人主義が善」となり、神との契約もなしに「自分勝手なエゴイズム」が独り歩きしているのが世界の風潮でしょう。

私は今日の「絆の断絶」の根本を見る思いであります。

「個人の尊厳」と言うも、「エゴイズムの個人」の内観もなく、「自由気ままな自己中心性のエゴを善とする」安易性が、「本来の尊厳」を傷つけ、「本来の自己」を見失っていることにも気づかない愚かさであります。

「エゴの自己」を善として、右肩上がりになし、永遠に続くと思う傲慢な驕りの自己に気づかなければ、「本当の絆」は有り得ないものです。私達は自己の思いを善として、「連続願望の妄念に任している我」に気づかなければ、最も恐ろしい生物でありましょう。宗教にも「連続の宗教」（善ことをすれば永遠に上昇する教え）と、「断絶の宗教」があります。

本来の世界宗教の共通は「断絶の宗教」です。キリスト教も、勿論仏教も、「断絶の宗教」です。

この「断絶」を超えるのに、キリスト教は「神との契約」です。仏教は「回心懺悔」のところに超え、共に助かる世界の教えです。

真の依り処

自己責任という言葉は、イギリスからアメリカ、そして日本へと入って来た言葉だそうです。アメリカと、国民性が違う感性をもっている、心温かい豊かな義理、人情。相手の身になって考える優しさなど、どこかに消えてなくなりそうです。そして、自立が第一と激しく責任をかすことばかりが先行してしまい、自立ではなく孤立になって迷走しています。自己責任という言葉は大変冷酷極まりない、人と人を削ったり、切ったりします。競争社会が創り出した頭れでしょう。このような社会では益々過ごしくなるばかりです。明確な道筋等みつかりませんが、お互いに発する言葉に気をつけ、少しずつ我慢をし、常にお念仏を申す身にさせて頂き、阿弥陀様にいつも守られているこの身に深く感謝申し上げます。

岡田ノリ子

鈴の音

生きるということとは、
生きることに苦悩す
るということ

藤元 正樹
（「解放への祈り」）

最近、「絆」という言葉をよく見聞きする。このことは人間の関係性が遮断されている現実がいたるところに現われている、一つの証拠でしょう。

せめて家族の絆だけでも強く保ちたいとする願望がありながら、家族の断絶、親子の断絶が顕著にみうけられる昨今であります。

このことは、何がそうさせるのか、何が原因なのかを重く考えさせられます。誠に人事ではありません。

そこで、今回は「連続」「断絶」について考えてみたいと思います。

子供会発足に あたり

坊 守 池田 邦子
スタッフ 大塚 陽子

光照寺の懸案にしておりました子供会がこの度発足致しました。その名も「ポニークラブ」と命名しました。親子共々に足並みそろえて、一歩一歩仏法のご縁、お念仏のご縁に会って頂ければと願っております。

年三回を予定しております。第一回目は去る四月一日午後一時半、総勢十九名御参加のもと、愛くるしいお子達の勤行を始めとし、自己紹介、ビデオ鑑賞、花まつりと楽しく過ごす事が出来ました。準備を下さった方にお礼申し上げます。第二回目は、夏休み中八月下旬頃、「お寺に泊まろう」を計画しております。これからの未来を荷なう子供達と共に歩んで行けたらと思います。

お若い御父兄の方、又お孫さんのおられる方、どうぞ御参加下さいませ。子供会ご入会の方はお申し出下さいませ。

合掌

お寺の本堂にて



霊園にて



護持会総会報告

淡海 雅子

平成二十一年度第十一回光照寺護持会総会が六月五日十時から光照寺本堂において開会され参加者は三十六名でした。

勤行（正信偈同朋奉讃）に引き続き、会員全員で婦人部と子供達の有志の皆様に合わせて仏教讃歌「真宗宗歌」・「恩徳讃」・「手のひらを太陽に」を唱和しました。

法話は元広島豊平道場主佐々木玄吾師に蓮如上人御一代記聞書より、「わが身をひとつ勸化せぬ者があるべきか」と題しお話頂きました。「わが身の勸化」とは、よき師よき友の弟子となつて法を聞き貫くこと。そして信知、信順し、念仏を称することである。「命がけの聞法」を勧め、仏法が伝わることを共に願いたいというお話でした。総会は佐々木玄吾氏を議長に議案に入りました。前年度の護持会の活動実績及び、護持会の収支決算と監査が報告され、全会一致で承認されました。今年度の活動計画案及び、今年度の収支予算案が提案され、何れも原案通り可決承認されました。

今年度の護持会親睦旅行は、五月二十九日から二泊三日で、「南国の自然風土と琉球王朝の宗教観を

訪ねる」、沖縄旅行を執行した報告がありました。沖縄では小児科医であり「まなざし仏教塾」を主催されている志慶眞文雄先生をお訪ねし、「生死をこえる道」と題し法話を頂きました。東本願寺沖縄別院を訪ね、勤行し、平和を願い、布教にあたる活動を拝聴いたしました。

副住職様より聞法会の内容紹介と、参加の呼びかけがありました。今年度新たに子ども会、「ポニークラブ」が発足した報告がありました。御住職様より本日のご法話を受け、勸化することの難しさ、自らの姿を問われるというお話がございました。また、今年度の報恩講は二十回目の節目となるというところで光照寺創立の経過を話されました。聞法会を大切にして、信心の人が生まれて欲しいという願いが強く語られました。

その後、お斎を頂きながら始めての参加者の紹介と、感話発表がありました。引き続き親鸞聖人御絵伝が絵解きサークルにより解説されました。生きがい大学の方々による民話「佐渡おけさ」、安来節が披露され笑いに包まれました。最後に全員で仏教讃歌「恩徳讃」を唱和し閉会いたしました。

今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



護持会総会の役員の方々



婦人と子供有志による合唱



佐々木玄吾先生のご法話



山田恒氏の羽差し。絵解きの様子

お盆



お寺の仕事をするということは、聞法会やご法事などで、常にお経や『正信偈』をお唱えするわけですが、その中でもお盆というのは『正信偈』をたくさんお唱えする機会です。ご葬家さんは一回の法要の場であっても、私においては、同じことの繰り返しをするお盆のお参りです。そこで情性に流されてしまいがちですが、よく考えてみると、ひとつとして同じ法要、同じ場面、同じ心境、同じ一日は無かったのです。

お盆は毎年やってきますが、毎年同じお盆というのは無いのです。昨年の私と今年の私は同じではありません。毎日、産声をあげて誕生している私だったのです。毎日を精一杯生きているかと問われれば申し訳ない気持ちでいっぱいです。夏の気候のせいなのか、お盆の法要の意味深さなのか分かりませんが、もう二度と無い一日だったと、痛烈に思わされるのがお盆ではないかなあと最近感じています。

「唯能常称如来号 応報大悲弘誓恩」
(ただよく、常に如来の号を称して、大悲弘誓の恩を報ずべし、といえり。)

お盆法要は二部制にて厳修致します。多数のご参詣をお待ちしております。(副住職 釈 徹照)

盂蘭盆会法要

- ・8月1日(日)
- 第一部(午前)9時30分受付
午前10時～11時30分まで
- 第二部(午後)1時受付
午後1時30分～3時30分まで
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数と午前か午後の参詣をご連絡下さい。
預骨、初盆の方は率先してお参り下さい。
また、どなたでもお参りできます。
真宗のお盆に触れて下さい。ご参詣をお待ちします。

お盆参り

- ・7月13日から16日の期間
- ・8月2日から16日の期間
(1日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。
時間につきましては、こちらで調整して連絡させて頂きます。
ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢：煩悩悪障を断てるか。
「今生においては、煩悩悪障を断ぜんこと、きわめてありがたき」

第15章

(注：「ありがたき」は「ありえない」の意)



如来回向の願船に乗じ、生死の苦海をわたり、報土にてさとり

川越喜多院の五百羅漢



民話「佐渡おけさ」箕輪政一氏
17期。民話の会会長。最早プロ級



正調 安来節 坂井貞夫氏
20期安来節同好会代表。腰振り五年の妙



安来節楽しみました。



役員さんもお友人でした。

お知らせ

寺務所より

◆法要のご案内

●手蘭盆会法要

八月一日(日)午前・午後二部厳修。

●秋季彼岸会法要

九月二十三日(木)午後一時三十分より厳修。

●報恩講

十月三十一日(日)午前十二時より厳修。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樸曉先生。日程は当寺にお尋ね下さい。

●大経の会

七月三日、九月二十六日、十月二日午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

七月八日、九月三日、十月十八日午後二時～四時まで。講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●さいたま親鸞講座

午後二時～四時まで。会場は大宮川鍋ビル。七月三十一日、九月十一日、十二月十一日。

●「親鸞聖人に人生を学ぶ講座」全六回。六月二十六日、八月二十一日、十月

十六日。会場は一心寺(浦和)詳細は当寺にご連絡ください。

●お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。宜しく願います。



春霞二礼四拍手奥の院

吉沢 光昭

(加波山神社)

お目当ての花それぞれに山笑う

ロッククライミング恐さいやせし

イフウチワ

(高鈴山)

牡丹に笠間に合いし雨模様

西木 順子

雨落とす牡丹のうなじ軽くうち

果作りの枯木こんどは大きいぞ

花大根農民一揆忘れまじ

花岡 要

散る花のほかは流れず春の川

小鳥たち何ついばむや春の芝

山田 恒

年賀欠礼罪が一つづつ消えてゆく

今風の波に米寿がもがいている

釈 義深

人の口電波の毎く拡散す

気にすれば煙も埃も大袈裟に

ありがたや時が総てを解決す

短歌(詩)



佐藤セツ子

遠浅の能登の浜辺にすすりあしソ
フトクリム君の在りし日ひそやかに満作の花咲きつぎぬ朝
光の中しはし華やぐ

かの日より雛飾る気になれず居て

小さき立雛玄関に置く

年どしを吾が庭に来て鳴く山鳩の

くぐもる声す永遠に哀しき

五月芹食むなと教えし祖母も亡し

ただ茫ぼうと夏野広がる

河野日出子

ひとり静かふたり静かに床しき

花なればいにしへ人の心宿らむ

小手毬は白きわらしべ青き星の子い

ぬぐり数多集いてホラ踊りよる

囲碁打ちの客来たるらしバラの門

香りほのかに新緑の午後

病んでなお瞳清しき友ありて生き

る命の尊きを知り

逝きし子の春の宴に迎え来ぬ水面

ゆらゆら花筏かな

淡き濃き木々の緑のざわめいて故

人を偲ぶ香立ちの墓

赤秀 品枝

やがてくる反抗期には叶うまじだ

つこをせがまれぐつと抱きしめ

目に涙くやしきことに精一杯地団

駄を踏む幼子かなし

篠原 潤子

執念で築二百年古民家を借りたゾ

ついに家賃は格安

母の日に手作りケーキかりんとう

家を出ている娘より届く

五キロ肥え脚にふたんがかかる

日々湿布大判ベタベタとはる

ヘルパーの資格をとって十五年今はなつかし働かし日々

梵鐘



花岡 要 画

四月に女優北林谷栄さんが
九十八歳で亡くなり、その追
悼番組で映画「阿弥陀堂だよ
り」がテレビ放映された。前に映画館で観たが八年ぶ
りに改めて感動した。雪国の
山里にぼつんと立つ小さな阿
弥陀堂に暮すおうめ婆さんと、
パニック障害を病んだ医師の
妻と帰郷した夫と村人との温
かい交遊を描いている。阿弥陀さまの見守りのなか
で、一つの命が助かり、一つ
の命が消え、一つの新しい命
が誕生し、延々と繋がってい
く人の暮らし。人が出合い思
いやる絆の中で、心豊かな関
係を築いていく。そんな風景
は私達の周りから失われてし
まった。おうめさんの「有難うござ
いました阿弥陀さま」秋の夕
陽が山肌に懸かり、赤とんぼ
が舞って美しい信濃の山々が
暮れていく。つい先年まで目
の前にあった触れ合いを思い
出させてくれた映画だった。

(釈恒浄)